

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月14日
【四半期会計期間】	第35期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 島中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期連結 累計期間	第35期 第1四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
営業収入(千円)	8,330,529	9,138,558	31,776,228
経常利益(千円)	1,010,616	1,431,462	3,438,318
四半期(当期)純利益(千円)	573,007	853,712	1,930,321
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	592,813	892,497	1,951,198
純資産額(千円)	12,566,148	14,099,606	13,435,382
総資産額(千円)	19,992,619	22,593,102	21,588,476
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	62.03	96.37	210.41
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	61.3	60.8	60.7
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	660,568	490,564	3,752,148
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	250,695	559,218	891,086
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	113,457	231,892	610,945
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	6,083,271	7,734,731	8,026,411

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、電力供給の制約や原子力災害の影響が依然として残るなか、復興需要等を背景として緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、欧州をはじめ海外景気の低迷、それに伴う不安定な為替動向など、下押しリスクも多く存在しており、先行きは依然不透明な状態が継続しております。

当第1四半期連結累計期間の主な事業概況につきまして、営業収入は、当社アーティストが出演や演出を手がける舞台公演を多数実施したこと、映像DVD販売において大型作品の販売が増加したことなどにより増収となりました。営業利益につきましては、上記舞台公演の稼働率が向上したこと、音楽DVD販売実績が好調に推移したことなどにより増益となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は営業収入91億3千8百万円（前年同四半期比9.7%増）、営業利益14億4千5百万円（前年同四半期比38.0%増）、経常利益14億3千1百万円（前年同四半期比41.6%増）、四半期純利益8億5千3百万円（前年同四半期比49.0%増）となり期首計画に対しても好調に推移いたしました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 〔アーティストマネジメント事業〕

当事業につきましては、地球ゴージャス「海盜セブン」、TEAM NACS「ニッポン公演 WARRIOR～唄い続ける侍ロマン」、佐藤健「ロミオ&ジュリエット」、三宅裕司「落語日本花吹雪～出囃子は殺しのブルース～」など当社所属アーティストが出演や演出を手がける舞台公演を積極的に実施し、好調であり主要な増収増益要因となりました。また、福山雅治ライブDVDの販売や多様なアーティストによるCM収入も好調でありました。

この結果、営業収入67億3千6百万円（前年同四半期比2.2%増）、セグメント利益15億4千4百万円（前年同四半期比42.4%増）となりました。

#### 〔メディアビジュアル事業〕

当事業につきましては、DVD販売におきまして、洋画「三銃士ノ王妃の首飾りとダ・ヴィンチの飛行船」、深津絵里主演邦画「ステキな金縛り」などの大型作品があり増収となりましたが、前年同四半期に比べヒット作品が少なかったことにより減益となりました。

この結果、営業収入19億8千3百万円（前年同四半期比80.8%増）、セグメント利益3千9百万円（前年同四半期比52.9%減）となりました。

#### 〔コンテンツ事業〕

当事業につきましては、サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfumeなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用による印税収入でありましたが、著作権印税や貸与報酬の減少により減収減益となりました。

この結果、営業収入4億1千8百万円（前年同四半期比34.8%減）、セグメント利益8千5百万円（前年同四半期比27.3%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は77億3千4百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億9千1百万円の減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は4億9千万円(前年同四半期は6億6千万円の獲得)となりました。

これは、主に法人税等の支払額及び営業債権の増加に伴う資金減少要因等はありませんが、税金等調整前四半期純利益及び営業債務の増加に伴う資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5億5千9百万円(前年同四半期は2億5千万円の使用)となりました。

これは、主に定期預金の預入による支出及び貸付けによる支出に伴う資金減少要因等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は2億3千1百万円(前年同四半期は1億1千3百万円の使用)となりました。

これは、主に配当金の支払額及び少数株主への配当金の支払額に伴う資金減少要因等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,247,040
計	37,247,040

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,311,760	9,311,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,311,760	9,311,760	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	9,311,760	-	1,587,825	-	1,694,890

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 453,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,602,500	86,025	-
単元未満株式	普通株式 256,060	-	-
発行済株式総数	9,311,760	-	-
総株主の議決権	-	86,025	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	453,200	-	453,200	4.87
計	-	453,200	-	453,200	4.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,544,866	8,754,242
受取手形及び営業未収入金	3,754,847	4,820,085
商品及び製品	1,054,509	1,020,547
仕掛品	1,004,945	1,093,954
貯蔵品	51,008	59,500
その他	1,630,348	1,417,516
貸倒引当金	317,520	338,444
流動資産合計	15,723,004	16,827,401
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	1,054,136	1,041,027
土地	1,760,487	1,760,487
その他(純額)	96,209	96,633
有形固定資産合計	2,910,834	2,898,148
<b>無形固定資産</b>	237,568	220,643
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	840,928	846,289
その他	1,885,460	1,810,003
貸倒引当金	9,319	9,383
投資その他の資産合計	2,717,069	2,646,909
固定資産合計	5,865,471	5,765,700
資産合計	21,588,476	22,593,102

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	4,859,188	5,800,761
未払法人税等	1,196,386	507,968
役員賞与引当金	35,200	-
返品調整引当金	26,460	27,500
その他	1,012,207	1,115,453
流動負債合計	7,129,442	7,451,682
固定負債		
退職給付引当金	831,750	849,509
役員退職慰労引当金	16,472	16,472
その他	175,429	175,832
固定負債合計	1,023,651	1,041,813
負債合計	8,153,093	8,493,496
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	1,694,890	1,694,890
利益剰余金	10,472,808	11,105,058
自己株式	476,255	476,424
株主資本合計	13,279,267	13,911,348
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,918	2,693
為替換算調整勘定	182,198	167,682
その他の包括利益累計額合計	178,280	164,989
少数株主持分	334,394	353,247
純資産合計	13,435,382	14,099,606
負債純資産合計	21,588,476	22,593,102

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業収入	8,330,529	9,138,558
営業原価	6,406,114	6,789,238
営業総利益	1,924,415	2,349,319
返品調整引当金繰入額	-	1,040
返品調整引当金戻入額	4,760	-
差引営業総利益	1,929,175	2,348,279
販売費及び一般管理費	881,279	902,552
営業利益	1,047,895	1,445,727
営業外収益		
受取利息	1,326	1,847
受取配当金	608	908
受取手数料	656	1,018
持分法による投資利益	-	6,713
その他	670	4,562
営業外収益合計	3,262	15,049
営業外費用		
事業組合投資損失	26,780	1,170
為替差損	10,643	27,678
その他	3,117	466
営業外費用合計	40,541	29,314
経常利益	1,010,616	1,431,462
税金等調整前四半期純利益	1,010,616	1,431,462
法人税、住民税及び事業税	520,245	500,376
法人税等調整額	97,692	51,878
法人税等合計	422,553	552,255
少数株主損益調整前四半期純利益	588,062	879,207
少数株主利益	15,055	25,494
四半期純利益	573,007	853,712

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	588,062	879,207
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	814	1,225
為替換算調整勘定	5,564	14,515
その他の包括利益合計	4,750	13,290
四半期包括利益	592,813	892,497
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	577,757	867,003
少数株主に係る四半期包括利益	15,055	25,494

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,010,616	1,431,462
減価償却費	52,473	51,619
貸倒引当金の増減額(は減少)	44,340	20,989
役員賞与引当金の増減額(は減少)	20,660	35,200
返品調整引当金の増減額(は減少)	4,760	1,040
退職給付引当金の増減額(は減少)	20,123	17,759
受取利息及び受取配当金	1,934	2,755
持分法による投資損益(は益)	714	6,713
事業組合投資損益(は益)	26,780	1,170
営業債権の増減額(は増加)	1,282,973	1,065,238
たな卸資産の増減額(は増加)	261,320	63,539
営業債務の増減額(は減少)	988,570	941,573
未払消費税等の増減額(は減少)	36,386	67,538
その他の流動資産の増減額(は増加)	217,237	178,405
その他の流動負債の増減額(は減少)	317,498	169,254
その他	1,722	78,937
小計	1,232,981	1,651,226
利息及び配当金の受取額	872	1,522
法人税等の支払額	573,285	1,175,853
法人税等の還付額	-	13,669
営業活動によるキャッシュ・フロー	660,568	490,564
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	500,000
有形固定資産の取得による支出	2,956	11,607
有形固定資産の売却による収入	8,279	-
無形固定資産の取得による支出	15,116	7,301
投資有価証券の取得による支出	216,200	550
投資有価証券の売却による収入	9,487	-
子会社株式の取得による支出	14,551	-
貸付けによる支出	1,600	44,153
貸付金の回収による収入	1,281	868
その他	19,319	3,525
投資活動によるキャッシュ・フロー	250,695	559,218
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	197	168
自己株式の売却による収入	105	-
配当金の支払額	90,873	222,404
少数株主への配当金の支払額	15,786	6,642
その他	6,705	2,676
財務活動によるキャッシュ・フロー	113,457	231,892
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,248	8,865
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	299,664	291,680
現金及び現金同等物の期首残高	5,783,607	8,026,411
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,083,271	7,734,731

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 なお、これによる当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
現金及び預金勘定	6,102,951千円	8,754,242千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	19,679	1,019,511
現金及び現金同等物	6,083,271	7,734,731

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月26日 定時株主総会	普通株式	92,372	10	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月24日 定時株主総会	普通株式	221,463	25	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳 普通配当 10円 記念配当 15円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネジメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	6,591,426	1,096,678	642,424	8,330,529	-	8,330,529
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	8,024	83,808	31,546	123,380	123,380	-
計	6,599,451	1,180,487	673,971	8,453,910	123,380	8,330,529
セグメント利益	1,084,436	84,527	117,586	1,286,550	238,654	1,047,895

(注)1. セグメント利益の調整額 238,654千円には、セグメント間取引消去8,580千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 247,235千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネジメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	6,736,677	1,983,046	418,834	9,138,558	-	9,138,558
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	11,860	183,099	15,073	210,033	210,033	-
計	6,748,538	2,166,146	433,907	9,348,591	210,033	9,138,558
セグメント利益	1,544,699	39,788	85,522	1,670,010	224,283	1,445,727

(注)1. セグメント利益の調整額 224,283千円には、セグメント間取引消去15,487千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 239,770千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	62円03銭	96円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	573,007	853,712
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	573,007	853,712
普通株式の期中平均株式数(株)	9,237,236	8,858,418

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月14日

株式会社アミューズ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 百井 俊次 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 米村 仁志 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。